



Title	小特集 遺伝子組換え作物コンセンサス会議
Citation	科学技術コミュニケーション, 1, 72
Issue Date	2007-03
DOI	<a href="https://doi.org/10.14943/17537">https://doi.org/10.14943/17537</a>
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/18944">https://hdl.handle.net/2115/18944</a>
Type	departmental bulletin paper
File Information	JJSC-72.pdf



## 小特集 遺伝子組換え作物コンセンサス会議

昨年(2006年)の秋から今年の2月にかけて、北海道が主催して「遺伝子組換え作物の栽培について道民が考える『コンセンサス会議』」が開催された。コンセンサス会議は、科学技術をどのように発展させていくのがよいかについて社会全体で考えていく手法の一つとして、世界的には20年近くの歴史をもつものである。日本でも、約10年前から科学技術と社会との関わりに関心を持つ研究者らによってコンセンサス会議手法の試行や社会実験が行われてきたが、今回の北海道での会議は、日本の地方自治体では初めて政策決定に密接に関わる形で開催された「実用段階」のコンセンサス会議である。

CoSTEPでは、このような手法を使って科学技術と社会の対話を促進していくことも、科学技術コミュニケーターの役割の一つであると考えた。そこで、CoSTEPの受講生と教育スタッフを中心に、CoSTEPの修了生や、CoSTEPの教育スタッフの一員でもある松井博和教授が代表を務める「遺伝子組換え作物対話フォーラム」のスタッフにも参加してもらい、プロジェクト・チームを組んで、上記コンセンサス会議に教育活動の一環として協力した。

この小特集は、その成果の一部を報告する論考4編をまとめたものである。